

子どもの表現を育む保育者養成

—保育内容（表現）の授業を通して—

藤本逸子*

1. 研究目的

この報告は、本学における「保育内容（表現）」の授業内容の在り方を探ることを目的としている。本学に人文学部発達教育科が開設された時から現在までの「保育内容（表現）」に関する授業内容の変遷を調査し、そこに現れた問題を示し、現在の授業内容の改善の一方向を示した。

2. 「保育内容（表現）」における問題

(1) 本学における「保育内容（表現）」の変遷

平成20年に人文学部発達教育学科が開設されてから現在まで、各年度に開講された「保育内容（表現）」に関する授業を、表Ⅰに示す。

表Ⅰ 「保育内容（表現）」に関する開講科目

入学年度	保育内容（表現）に関する科目	備考
平成20年度	保育内容の研究・表現Ⅰ（音楽表現）1単位 保育内容の研究・表現Ⅱ（身体表現）2単位 保育内容の研究・表現Ⅲ（総合）2単位	人文学部発達教育学科開設
平成21年度	保育内容の研究・表現Ⅰ（音楽表現）1単位 保育内容の研究・表現Ⅱ（身体表現）2単位 保育内容の研究・表現Ⅲ（総合）2単位	
平成22年度	保育内容の研究・表現Ⅰ（音楽表現）1単位 保育内容の研究・表現Ⅱ（身体表現）2単位 保育内容の研究・表現Ⅲ（総合）2単位	
平成23年度	保育内容の研究・表現Ⅰ（音楽表現）1単位 保育内容の研究・表現Ⅱ（身体表現）2単位	
平成24年度	保育内容（表現）2単位	教育学部教育学科開設
平成25年度	保育内容（表現）2単位	
平成26年度	保育内容（表現）2単位	
平成27年度	保育内容（表現）2単位	
平成28年度	保育内容（表現）2単位	

人文学部に発達教育学科が開設された平成20年から平成22年までは、表現Ⅰ（音楽表現）・表現Ⅱ（身体表現）・表現Ⅲ（総合）の保育内容（表現）に関して三種の科目が開講されていた。平成23年度に、表現Ⅰ（音楽表現）・表現Ⅱ（身体表現）の二種になり、教育学部教育学科の開設された平成24年度からは、

* 東海学園大学教育学部教授

保育内容（表現）のみとなっている。

平成20年度に開設された人文学部発達教育学科の「保育内容の研究・表現」の授業は、次のような教員が担当していた。

- 表現Ⅰ（音楽表現） 声楽を専門とする音楽教員
- 表現Ⅱ（身体表現） 幼児教育・保育の現場経験を持つ教員
- 表現Ⅲ（総合） 人形劇団員の経験を持つ教員
幼児教育・保育の現場経験を持つ教員

平成24年度に開設された教育学部教育学科の「保育内容（表現）」は、平成20年度開講時に「保育内容の研究・表現Ⅰ（音楽表現）」を担当した教員が、引き続き授業を担当した。平成26年度からは、筆者（ピアノ演奏を専門とする音楽教員）が担当している。

(2) 「保育内容（表現）」の授業における問題

人文学部発達教育学科発足当時は、「保育内容の研究・表現」の授業を専門の異なる教員が多面的に授業をおこない、「音楽表現」「身体表現」「総合表現」と充実した授業が展開されていた。それが、教育学部教育学科開設時に、「保育内容（表現）」に一本化された。シラバスの内容を見ると、人文学部発達教育学科時の「保育内容の研究・表現Ⅰ（音楽表現）」の踏襲に近い。

「表現」のある一面に特化した授業内容では、特化した一面に関しては、理解が深まるであろうが、「表現」における重要な要素である「多面性」への理解が欠けてしまう。しかし、「表現」の多面性を、そのまま多面的に15回の授業の中で学生に示し、理解を求めるのは困難である。授業そのものが、総花的な解説に陥る危険性さえある。また、教員が1名のみで、「保育内容（表現）」を担当する場合、その担当教員の専門性が、「保育内容（表現）」の多面性をすべて包括することが可能であるかという問題も出てくる。単一教員による15回で完結する「保育内容（表現）」の授業の在り方の難しさが、ここにある。

3. 「保育内容（表現）」における試み

「保育内容（表現）」では、従来の「音楽表現」に関する授業内容に加えて、次のような表現活動を学生が授業内で体験するようにした。学生に課した表現活動は、筆者の独自の実践もあるが、過去に学会で紹介された活動もある。

造形的活動

- ・自画像で自己紹介

自分の似顔絵を描き、その絵に自分の特徴を一言添えて、自己紹介する。

- ・新緑を「木」以外の絵で表す

教室の窓から見える新緑のすがすがしさや初夏らしい雰囲気や「樹木」以外の絵で表す。

- ・母音「あ」「い」「う」「え」「お」のそれぞれの音のイメージを絵で表す
- ・今朝、目覚めて最初に聞いた音のイメージを絵で表す
- ・教室内で耳を澄まし、今、聞こえている音のイメージを絵で表す
- ・新聞紙コンサートのコスチュームを新聞紙で作る

新聞紙を使って出せる音を探し、その音を組み立ててグループ発表を行う音楽表現の課題をだしている。その発表の際、音楽隊のコスチュームを新聞紙で作る。

身体的活動

- ・ピアノの音のテンポに合わせて、歩く、走る、飛ぶ。
- ・ピアノの音のリズムに合わせて、歩く、走る、飛ぶ。
- ・楽器の音や声からイメージする動物の動きをする。
- ・楽器の音や声からうけるイメージを体の動きで表現する。
- ・新聞紙コンサート時の身体表現
- ・無言劇
- ・遊びをテーマにした創作無言劇をグループで発表する。

これらの活動は、グループ発表の課題として出したものもあるが、講義の合間に小休止的に行った活動もある。

ピアノの音に関しては、筆者も弾いたが、学生が弾いたほうが多い。楽器の音や声は、すべて学生が出している。

グループ発表の時には、必ず、学生に「評価」させている。自分の所属するグループ以外の評価はもちろんだが、自分の所属グループの発表も自己評価することを課している。

評価内容は、数字で記すところもあるが、自由記述で、「必ず一つは褒めること」「必ず一つは、より良くするためのアドバイスをすること」を必須としている。この「評価」する課題で、学生は、「良いところを見つける」ことが、上手くなった。何気ないところに「光るもの」がある。その「光るもの」に気づく力は、保育・幼児教育の現場で、特に必要とされる力である

4. 学生の評価

上記の授業の中で、学生は、「子どもの表現」についてどのような考えを持つようになったのか、下記の内容で、「保育内容（表現）」の授業終了後に、学生に自由に記述してもらった。

子どもの「表現」についての自分の考えを次の三つに分けて書きなさい。

- (1) 「保育内容（表現）」を受講する前の自分の考え
- (2) 「保育内容（表現）」を受講し終えた現在の自分の考え
- (3) 子どもの「表現」について、さらに視野を広げ、考えを深めていくには、どのようにしたらよいか。

上記の自由記述は、88名から得られた。この自由記述の内容を、研究等で公開することを了承した10名の学生の記述内容を次に記す。

(1) 「保育内容（表現）」を受講する前の自分の考え

- 1) 子どもの表現というものをどんなものがあるかあまりわかっていなかった。
- 2) 表現することは、体を動かしたりするだけだと思っていました。表現と言ったら、体育の創作ダンスだと受講前は思っていました。
- 3) 自分の身体を使って表現することが恥ずかしい、子供たちがのびのび表現できればよい、大人は音に合わせて動いたりイメージを表現することは簡単だという考えを持っていた。「表現」は、ただリズムに合わせて動き、音の響きに合った動きをするだけだと考えていた。また、「表現」と言われると動きなどの身体表現しか考えを持っていなかった。
- 4) 新しい表現の授業が入り、音楽に合わせて踊ってみたりして自分を表現していくという授業なのか

なと思った。子どもの表現を学ぶのは少し難しそうなイメージがあり、詳しい内容は全く想像がつかなかった。音楽の授業の表現であるから楽器を使ったりして授業をするのかなと思った。

- 5) 子どもの表現について、特にくくりはなく、ほんやりとした印象を持っていて、その子どもが表現しているものは、その子供のものであり、他者は何を表現しているかしっかり理解しないでその表現行為自体を褒めているものだと考えていた。また、子どもは想像が豊かで、様々なものを表現することがあって、その行為にはいろんな手段があると考え、保育者は、その表現方法を必要な部分だけ子どもに提供する。あくまで子どもが主体となる行動だと考えていた。自分の思いを他者に伝えるためには、体全体を使って伝えるようにすることや、動きや表情が必要だろうとは、ほんやり考えていたが、具体的にはないが必要なのかは、考えられていなかった。
- 6) 私の最初の考えは、音楽室で踊りながら歌を歌ったり、しっかり時間をとって構成を考えていくものだと思います。楽器を使って子どもたちとどのように音を楽しんでいくのかを学んでいく内容だろうと思っていました。「表現」という言葉自体は、漠然としすぎていて、正直イメージしにくい部分もありました。
- 7) 受講する前では、音楽を弾くことはできるけれど、それを「体を使って表現する」と言われると難しく感じ、また、人の前で体を動かすことは恥ずかしく、できればやりたくないなあと考えてました。
- 8) 表現は、普段自分たちがしている音楽と同じことだと思っていた。表現も楽器を使って、先生に言われた何かを表現することだと思った。
- 9) 音やリズムを使って体で表現するという演習の授業では、恥ずかしい気持ちがあったり、面倒くさい気持ちがあった。また、この授業をすることで何が学べるのかどんな必要性があるのかわかっていなかった。
- 10) 保育内容表現を受講する前では、まず、そもそもこの講義で何をするかもあまり理解していなかったし、「表現」と言っても、体を使って表現するのか、それとも、言葉なのか、歌なのか、もよく分かっていませんでした。発表などで「表現」する場を設けなくても、子どもは自分のやりたいことや思ったことは「表現」するから、「表現」することで何が学べて、「表現」することに何の意味があるのか理解できていなかったです。

(2)「保育内容（表現）」を受講し終えた現在の自分の考え

- 1) 受講し終えてからは、子ども自身が自分の好きなように表現するだけでなく、自由の表現できるような環境を保育者が作ってあげるということも大切なことだと思いました。また、音で表現するだけでも音の速さが、高さでたくさんの表現の仕方があるんだと知ることができました。
- 2) 「表現する」ということは、体で表すことはもちろん、自分の気持ちがテーマを楽器や身近なもの（新聞紙など）で、音楽的に表現することもできることを知り、これからは子どもと遊ぶときは、新聞紙やペットボトルなどで、年齢や月齢に合った様々な表現を一緒にやっていきたいと考えています。
- 3) 受講してから、まず、講義でイメージするものを絵で描くことをして、「あ」からイメージするもの考えた時、「あ」のつくものしか出てこなかった。しかし、子どもたちは想像力が豊かなので、きっと、「あ」という字のフォルムからイメージするだろうと思い、自分の想像力の硬さに気づいた。リトミックでは、身体を使って音に合わせて動いたり、音に合わせて表現したりして、初めは恥ずかしいと思っていたが、保育者が豊かな表現ができないのに、子どもが豊かに表現できるわけがないという考えになった。子どものイメージしているものを豊かに表現できるように環境を作ることが保育士の役割なので、まずは、自分自身が全身を使って恥ずかしがらずに表現すること、い

ろいろなものに対して固定的なイメージを捨てることが必要だと考えた。

- 4) 表現の授業を終えて、ピアノの音を出して、それぞれのグループで創作したり、音に合った動きを見つけることが難しかったけど、とても楽しかった。ピアノの担当をやった時は、練習通りに弾けなかったけど、動きと並行して、ピアノの音を出すのが面白かった。また、他のグループの創作発表を見ることで、自分のグループにはない動きや発想が発見できて、とても面白かったです。最後の新聞紙でいろいろなものをつくって、表現をして案を考えるのが難しかったですがとても楽しめました。その他の自分たちのグループで幼児向けの室内遊びも考えて発表したのが楽しかったけど、自分たちの考え不足で説明がうまくいかなかったのが悔しかったです。
- 5) 音楽・動きを通じて、表現することは、簡単ではないが、奥が深いと感じた。また、表現の方法には、様々な手段があり、体の一部分を使って、音を鳴らしたり、スキップや歩き、走りで音楽に合わせて表現する方法もあるのだと感じた。また、楽器を使った表現方法には、表現のしやすさを感じ、子どもたちにとって、とっても良い楽器との触れ合う場になるのだと考えた。表現の仕方には、一人ひとりが持っているやり方があり、すべてが素晴らしいものだと授業を通じて感じた。
- 6) 表現は、私たちが普段生活している中のいろいろな場面や場所で、あふれており、それを表現していくことが難しいと思いました。いきなり、〇〇を表現していこうとなっても、戸惑いが多く、考えることに行き詰りました。それでも、例えば、今回やった新聞紙で表現する演習では、音の出し方や、新聞紙で帽子をつくりなど、楽しみ方を知ることができました。そして、他のグループの発表でも見て、真似してみることで、得たものも多くありました。
- 7) 表現の受講を終えた今では、表現の仕方はただ体を動かすのではなく楽器でないものを楽器に変えて表したりと様々な方法があることを学び、他の班の動き方なども楽しみながら、観ることができたため、恥ずかしさが消え、今ではもっと多くの表現を学びたい、また、他の人の表現の仕方をたくさん見たいという考えとなりました。
- 8) 授業を受けて、表現は音楽と似ていたところもあったけど、自分が思うように体を動かすことが多いのが表現だと分かった。表現は、幼稚園や保育園でよく使われると思うし、子どもにとって重要なことだと思う。先生や親に言われたものだけを表現するばかりではなく、自分が思った通りに表現して、友達と協力することが大事だと思う。
- 9) この授業を受講したことによって、人の前で発表するということが前ほど恥ずかしくなくなった。実際に音やリズムに合わせていろんなことを表現することは頭を使い、創造力や発想力が必要だと気付いた。これを子どもたちにやらせると、子どもだからこそ思い浮かぶ面白い表現が生まれるんじゃないかと思い、少しわくわくする。グループで発表するには、体が必要なので、運動機能の発達にもなる。「表現」が「領域」の一つに入っている意味が分かった。
- 10) 表現を受講して、表現することの大切さを学びました。楽しい音楽表現で、リトミックの歴史や子どもの発達段階について学び、後半の講義では、実際にリトミック室で、グループに分かれて、発表し合いながら、表現の奥深さを知ることができました。発表を通して、協調性やチームワーク、自分の意見を述べたり、相手の意見を聞いて、こんな考えもあるのかと受け入れられること、互いの意見を出し合い、自分とは別の意見があることを知ること、発想力や創造性など多くのことを学ぶことが出来るということが分かりました。したがって、表現は、様々なことを学ぶことのできる最高の機会のため、表現することは大切であるという考えを持つようになりました。

(3) 自由記述から見えてくるもの

(1) では、「子どもの表現」についての考えを尋ねたが、上記した学生の回答は、すべて、「保育内容(表現)」を受講する前の授業に関するイメージを述べていた。学生にとっては、「表現」という言葉が、

直接、授業名に結びついてしまっているようである。

(2)の授業後の考えについてであるが、8)の「表現は、幼稚園や保育園でよく使われると思うし」は、表現を技術としてとらえているのではないかと、気になる。今後の課題を示してくれた記述である。授業回数の前半では、個人の細かい表現活動を学生に課した。それに関する記述は少ないが、戸惑いを感じたり、自分の発想の硬さに気づいたりしたようだ。授業回数の後半は、グループによる表現活動を多く行った。やはり、その活動に多くのこと感じたようで、それに関する記述が多い。自分とは違う発想や表現に触れて、グループ活動の中で、多くの学びを得た様子が伺える。

5. 今後の課題

学生に課したグループ発表は、回を重ねるごとに、独創性も感性も豊かになり、すべての表現が囚われから解放され生き生きとしてきた。自分の発表だけでなく、他の学生の発表を見る目、感じる心も育ってきた。また、学生に課した「評価」の「褒める」と「アドバイス」の内容も適切さが増してきた。このようなことから、まだまだ、足りないところ、工夫の余地は多くあるが、15回授業で単一教員による「保育内容（表現）」の授業の中で、「表現の多面性」「表現する喜び」「何気ないところに光るものがある」を学生がある程度実感できたという点では、この試みの方向は間違っていないという感がある。今後は、シラバスの授業内容を精査し、より充実した内容かつ効率的な授業展開ができるようにしていきたい。

「子どもの表現活動の発達」を学生に理解させることも、「保育内容（表現）」の大きな柱の一つである。しかし、学生の記述にそのことに関するものがほとんどない。学生の言動を見ても、「子どもの表現活動の発達」を充分理解できているとは、とても言えない。上記のように、学生の感性を豊かにする点では、「実感」から得ることができたようである。やはり、「実感」できることは、理解が進む。「子どもの表現活動の発達」をいかに実感してもらうか。これが、今後の大きな課題である。

参考文献

- 井口太, 2015, 新・幼児の音楽教育, 朝日出版社
今井真理, 2016, 保育の表現技術実践ワーク, 保育出版社
厚生労働省, 2013, 保育所保育指針解説書, フレーベル館
厚生労働省告示141号, 2013, 保育所保育指針, フレーベル館
文部科学省, 2013, 幼稚園教育要領解説, フレーベル館
文部科学省告示第26号, 2012, 幼稚園教育要領, フレーベル館
鈴木恵津子, 2014, 改訂つくっておどっておもちゃ箱1, 教育芸術社
鈴木恵津子, 2014, 改訂つくっておどっておもちゃ箱2, 教育芸術社
高御堂愛子, 2015, 幼稚園教諭・保育士をめざす楽しい音楽表現, 圭文社
田澤里善, 2014, 表現の指導法, 玉川大学出版部
吉永早苗, 2016, 子どもの音感受の世界, 萌文社
幼少年教育研究所, 2010, 新版遊びの指導, 乳幼児編, 同文書院
全国社会福祉協議会・全国保育士会, 2000, ハンディ保育所保育指針, 全国社会福祉協議会・全国保育士会